

ひ町長 ひとくごと

齊藤 讓

燃える教育

光町の学校教育は、いま青い炎を燃やしはじめています。しかも、それは将来大きく、真つ赤

の先生は……という一部の白けた声もあるが、光町のどの学校でも一度覗いてみれば、この考えは一変するはずである。

充実、発展を図って欲しいという熱い願いと期待が込められているのである。だから、施設が整備された後の教育現場の状況変化には、町政担当者や教育関係者は祈るような関心を寄せてきたのである。いまこの期待に応えて情熱を燃やす教育現場を眼のあたりにし、先人、先輩が注いできたご努力が報われたような気がして涙がでるほどうれしく、感慨無量である。教育は、百年の大計であり、一朝一夕にして変わるものではないという見方もある。しかし、私は鋭敏で感受性の強い子供達は、教師や周囲の対応いかんで短期間に進歩にしろ後退にしろ、思いがけない変化をすることをしている。とりわけ、成績の低下や非行等の退歩への変化は、鋭く速い。

し、今年は伸び伸びとして活発な発言が飛び交う日吉小学校の授業風景をみて、私の懸念は払拭された。南条小学校では、ランチルームで全校生徒と給食を共にした。一年生から六年生まで給食当番が、それぞれ自分のクラスの盛りつけをしていたが、特に小さな一年生が、白衣を着て大きなマスクをかけ、神妙な格好で盛りつけや配膳をしている姿は、とても頼みしかなかった。

安定した学校運営が行なわれ、必然的に生徒の成績も統一試験等では、東総地区で常に最上位に位置しているという。「少しおとなし過ぎるのですよ。」と言った校長の言葉が印象的である。今年の町内駅伝大会に、中学校の教員がはじめてチームを編成し、生徒と共に自ら参加した。また、大会終了後、だれもいない会場で黙々と清掃をする生徒。このような教師と生徒の姿が今の光中学校の明るさと充実を如実に物語っているように思える。学校教育を更に燃えさせるには、社会教育と家庭教育の充実が絶対に欠かせない。家庭の責任を放棄し、学校教育のみに総てを依存することは止めて欲しい。家庭教育を放棄することは、父親、母親であることを放棄するに等しい。私も、これから一歩も二歩も踏み込んだ実効性のある社会教育を展開する覚悟である。

ある。私は、過日町内の小・中学校を視察し、このように実感した。なぜなら、各学校とも校長をはじめ教職員の目の色が変わって、他校に負けまいとする競争心が漲り、学級経営に色々な創意工夫が生まれ、特色のある教育が展開されているからである。作品や資料の展示、読書の奨励などに工夫を凝したり、教育器機を積極的に活用したりして授業の効率化に心を砕いているのが教室に入った瞬間に感じられた。各学校とも指導方針については、教師間で激しい議論を積み重ねていると、かねてから教育長に聞いていたが、その熱意が授業にそのまま反映されているように思われた。兎角、現代の社会風潮の中には「いま

とところで、学校現場のこのような変化の背景には、町教育委員会との単独設置が作用していることも見逃せない。教育委員会と学校とが密着したことによりこの中から学校相互の連携と競いあう土壌が着実に育ってきているのである。光町は、教育の振興を常に政策の根幹に据え、教育環境の整備に力を入れてきた。五十四年度から五年間で全小学校校舎の新築と中学校校舎を全面改修し、今や教育環境は近隣市町と比較して、優るとも劣らないといつて過言ではない。

この建設の際、建物だけが立派になっても、教育の中身が良くならなければ意味がないという声を各所で聞いた。正にその通りである。しかし、乏しい財源の中で進める財政投資には、この施設を十分活用して、教育の

家庭の不和や崩壊などによって、簡単に横道に逸れていく子供達の悲しい数々の姿を見るにつけ、つくづくそう思うのである。教育は一瞬たりとも怠らしてはならず、常に全力投球でなければならぬ。信念と情熱は、必ず子供達の健やかな心の扉を開くはずである。実は、昨年視察した際に、日吉、南条小学校は小規模校であるせいか、子供達に覇気の乏しさを感じた。しか

今、光中学校にはさざ波もなく、

